

北九州市感染症発生動向調査感染症週報

令和8年第37週(令和8年9月7日～令和8年9月13日)

<発生動向>

第37週は結核の報告が6件ありました。また、定点当たり報告数は、インフルエンザが3.70、RSウイルス感染症が3.00、突発性発疹が0.54と前週より増加しています。

9月24日から30日は「結核予防週間」「呼吸器感染症予防週間」「非結核性抗酸菌症啓発週間」です。結核の主な症状は咳や痰、発熱等で風邪の症状に似ていますが、風邪との違いは症状が数週間続き、治ったと思ったらまた繰り返すことです。2週間以上、咳や痰が続く時は医療機関を受診しましょう。また、年に1回は胸部エックス線検査を受けましょう。非結核性抗酸菌症は、結核と似た症状がみられることがありますが、結核との違いは、一般的には人から人へ感染しないことです。別紙をご参照ください。

■ 全数把握疾患報告

病名	北九州市		福岡県		全国(前週)	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	6	123	15	564	257	10,129
腸管出血性大腸菌感染症	2	33	6	159	137	2,910
急性脳炎	1	13	1	25	11	349
梅毒	6	90	15	509	162	7,934

■ 定点把握疾患報告数

病名	北九州市			福岡県		全国(前週)	
	報告数	定点当たり	定点当たり(前週)	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	9	0.39	0.78	106	0.87	7,777	2.08
インフルエンザ	85	3.70	2.57	541	4.43	12,299	3.29
急性呼吸器感染症	1,114	48.43	49.48	6,563	53.80	179,995	48.41
RSウイルス感染症	39	3.00	2.23	165	2.36	2,289	1.02
咽頭結膜熱	8	0.62	0.69	60	0.86	580	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	19	1.46	1.00	170	2.43	3,094	1.38
感染性胃腸炎	114	8.77	8.08	430	6.14	8,679	3.86
水痘	5	0.38	0.00	22	0.31	476	0.21
手足口病	5	0.38	0.38	55	0.79	3,882	1.73
伝染性紅斑	0	0.00	0.00	1	0.01	70	0.03
突発性発しん	7	0.54	0.31	33	0.47	698	0.31
ヘルパンギーナ	3	0.23	0.15	22	0.31	2,159	0.96
流行性耳下腺炎	0	0.00	0.00	1	0.01	72	0.03
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	10	0.01
流行性角結膜炎	12	2.00	1.17	125	4.81	448	0.65
細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	13	0.03
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	22	0.05
マイコプラズマ肺炎	3	1.50	1.00	4	0.27	193	0.40
クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	0	0.00	6	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.00	0	0.00	3	0.01

※データは速報値として公開するものであり、後日修正される場合があります。

※全国データについては、更新時期が北九州市および福岡県の翌週となるため、前週の情報を掲載しています。

○北九州市感染症情報ホームページ(<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18300149.html>)もご参照下さい。

1年間で
(2025年)

新規登録者数

9,899人

死亡者数(概数)

1,474人

新登録結核患者は高齢者に多く、およそ6割が60歳以上となっています。



結核

あります

は

令和の日本にも

早期受診、
早期診断

で正しい治療を!

せき・たんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

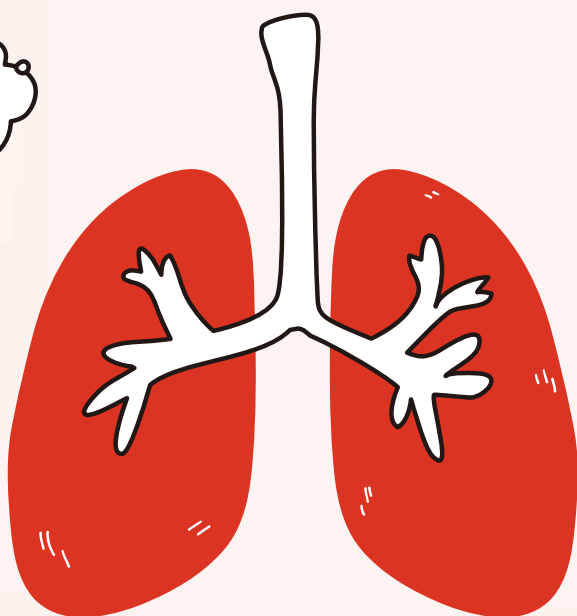


多種にわたる疾患があり

基本的な感染対策

が有効

呼吸器感染症には、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、細菌性肺炎などがあり、手洗い、換気、咳エチケットなどの基本的な感染対策・予防が有効です。



呼吸器 感染症

のコト

正しく知ろう

さまざまな
症状がみられる

非結核性

抗酸菌症

非結核性抗酸菌症では、長引くせきやたん、発熱、倦怠感、体重減少などのさまざまな症状がみられますが、結核とは異なり、通常は人から人へ感染しません。



という視点を

NTM症

長引く咳に



診断や治療に時間がかかることがあるため、症状が続く場合は早めに受診しましょう。

※NTM(nontuberculous mycobacteria): 非結核性抗酸菌



結核

呼吸器感染症

NTM症

に関するQ & A

結核

Q1 結核はどうやってうつるの？

結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌を含んだ飛沫が飛び散るようになります。その結核菌を吸い込むことにより周りの人に感染が広がります(空気感染)。

結核の症状(咳、たん、微熱、体のだるさなど)には特徴的なものがなく、初期には目立たないことが多いため、特に高齢者では気づかぬうちに進行してしまうことがあります。咳やたんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続いたりする場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

Q2 普段から気を付けることは？

定期的に、胸部エックス線検査を含む健康診断を受けることが重要です。結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。

Q3 結核は治療すれば治るの？

結核は通常、薬(複数の抗結核薬等)を医師の指示どおりに飲むことで治療できます。標準的な治療期間は6か月～9か月です。治療途中で薬を飲むのをやめてしまったり、指示どおりに薬を飲まなかったりすると、結核菌が薬に対して抵抗力(耐性)を持ってしまい、薬の効かない結核菌(耐性菌)になってしまう可能性があります。医師の指示を守って、定められた期間きちんと薬を飲み続けることが最も重要です。

呼吸器感染症

Q4 呼吸器感染症にはどんなものがあるの？

新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザ、RSウイルス感染症、細菌性肺炎などがあります。呼吸器感染症の多くは、感染した人が咳やくしゃみをすることで飛んだ病原体を含む飛沫を吸い込むことで感染します。

Q5 呼吸器感染症はどうやって予防すればいいの？

呼吸器感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前など、こまめに手を洗いましょう。また、感染を拡げないために、咳やくしゃみをするときにはマスク、ティッシュ、ハンカチ、袖などで鼻と口を覆いましょう。

また、新型コロナウイルス感染症、季節性インフルエンザ、肺炎球菌感染症のワクチンについては、症状が重くなりやすい高齢の方や一定の基礎疾患(持病)のある方を対象に定期接種を実施しています。定期接種の詳細については、お住まいの市区町村にご確認ください。

NTM症

Q6 NTM症(非結核性抗酸菌症)はどんな病気なの？

NTM症は土や水、浴室などの環境に自然に存在する菌が肺などの臓器に入り、ゆっくり炎症を起こす病気です。結核とは異なり、一般的には人から人へうつることはありません。咳や痰が長く続く、息苦しさがあるなどの呼吸器症状、微熱や体重減少などの全身症状がみられることがあります。

Q7 NTM症はどうして早期診断が大切なの？

NTM症はゆっくり進行する一方、感染が長期にわたり続いた場合、肺の傷みが進むことがあります。早期に診断できれば、病状を把握し、必要に応じて治療や経過観察を始めることができます。咳・痰が長引く、息苦しさが続くなどの症状がある場合は、早めに呼吸器内科(など)がある医療機関で相談することが重要です。

